ダイナミック・ファクター・モデルによる国内金融市場統合の分析

筑波大学　永易　淳

本研究はObstfeld（1994）の消費相関モデルに基づき、国内における金融市場の統合度を分析した研究である。完全統合下では地域間の消費相関に密接な関係が理論上成り立つことを背景に、ダイナミック・ファクター・モデルを用いてこの仮説を検証する。その結果、地域特有の消費変動には有意な誤差が見られず、日本の金融市場は統計的に完全に統合していることを示している。また、この統合は1965－1975年間に飛躍的に上昇したことや、地域消費の共通要素は株価リターンと関連していることも実証している。